



なきごえ



1993

3

OSAKA  AKASO

大阪市
天王寺動物園協会



(撮影：宮下 実)

もくじ

- 2 — New Face アカカンガルー
- 3 — 動物と私 エゾシカと私 (山地明子)
カバーウォッチング アジアゾウ
- 4 — 北海道の野生動物たち(下) (森田謙一)
- 6 — 中国の動物園を訪問して (森本委利)
- 8 — グラフZOO 中国の動物園
- 10 — 獣医室から ㊟ コアラの健康管理
- 11 — ZOO DIARY

カバーウォッチング

アジアゾウ ゾウ目 ゾウ科

動物園といえば子供からお年寄りの方まで誰もが思い浮かべる動物がゾウです。当園では現在3頭のアジアゾウを飼育しています。写真は、一番若い23歳の“ラニー博子”です。

(撮影：前田 茂)

||||| 動物と私 |||||

エゾシカと私

エゾシカは北海道の代表的な大型の野生動物です。明治時代には乱獲と大雪によって絶滅寸前まで数が減ってしまいましたが、その後北海道東部に細々と生き残っていたシカ達は1950年頃から急激に増えはじめ、北海道全域に分布を広げています。それとともに、シカによる食害などの農業被害が深刻化しています。被害対策として今のところ最も一般的な方法は、狩猟や有害獣駆除による捕獲です。

北海道足寄町では有害獣駆除により年間約400頭のエゾシカが捕獲されています。足寄では、地元のハンターの協力を得て捕獲個体の内臓を提供してもらい、北海道大学のシカ研究グループを中心とした複数の研究者によって、エゾシカの生態を明らかにするための研究が行われています。私は、生殖器と脳を調べてシカの繁殖について研究をしています。

午前4時、車の助手席にライフルを持ったハンターを乗せて山に向かいます。まだ10月のはじめだというのに窓は凍りつきハンドルを握る手はかじかんで感覚がありません。おまけに、昨夜の歓迎の酒盛りで飲み過ぎて、まだ頭がくらくらしています。それでも夜が明け朝日に照らされた雌阿寒岳の美しさに見とれてみると気分も晴れ晴れしてきました。「いたぞ!」というハンターの低い声で我に返ってみると、若い植林地の斜面に

オーストラリアからの動物
親善大使アカカンガルー

フクロネズミ
カンガルー科

昨年12月18日、オーストラリアのメルボルン動物園からアカカンガルー4頭(オス1、メス3)が贈られて来ました。これは国内では近親繁殖の恐れが強くなって来たため、原地から新たな導入を企ったものです。1月26日から一般公開しました。



山地明子さん

(大阪府立大学獣医解剖学教室)

シカがいます。そっと車を近づけてエンジンを切ります。ハンターが狙いを定めて発砲するまでの数秒間、私は「早く逃げろ!」と叫びたい気持ちを必死に押さえて息を止めています。ドーンという銃声とともにシカが走りだすと急いでエンジンをかけてシカを追います。はね返ってきた音から弾はシカに当たっているようです。もし見逃してしまったら討たれたシカは無駄死にです。シカが倒れたのを見とどけて車からおりて植林地の斜面を駆け上がってみると、シカは脊椎を撃たれて下半身が動かなくなったただでまだ生きてはいませんか。かわいそうだけどうしようもありません。頸動脈を切って放血している間シカの頭を抱いていた私はあふれそうになる涙を必死にこらえていました。この時のシカの悲しそうな瞳と鳴き声は今でもはっきりと記憶に残っています。

死体はハンターの家の庭先をかりて解体し、必要な臓器をもらって肉はハンターに返します。エゾシカの成獣は雌でも体重が100kgほどありますから作業の全てが力仕事です。こうして大変な苦労をして集めたサンプルからは、双眼鏡による観察だけではわからないたくさんの情報が得られ、エゾシカの生態が少しずつわかってきています。

私はこのような調査に参加して様々なことを学びそして自分が変わったと思います。狩猟というだけで眉をひそめ、ハンターなど野蛮だと感じる人が多く、現に私自身もそうでした。特に野生動物の保護を感情的に考える人、動物好きの人にとっては、いかなる時にも殺すということはいけないことであり考えられないことかもしれません。しかし、実際に地域で被害にあっている人にとってシカは悪魔のような存在です。だからといって無計画な捕獲による駆除を続けていても良い結果が得られるわけがありません。科学的な根拠をもとにシカを保護管理していくことが必要になってきているのです。これはシカだけでなく全ての野生動物にもいえることでしょう。人と野生動物がうまくつき合うためには、ていねいに一つ一つ折り合いを付けていくことが大切だと思います。

(やまじ あきこ)



③キタキツネ

キタキツネは、北海道、南千島、サハリンに分布し、大きな適応力で種々の餌資源をうまく取り込み繁栄しています。都会では人間の出すゴミ等を餌とし（これをアーバンフォックスと呼ぶ）、観光地では、そのかわいい姿ゆえ、観光客からお菓子等をたくさん貰い、まるまると太っています。

しかし、キタキツネは、「エキノコックス」（寄生虫の仲間）の問題について避けて通ることはできません。このエキノコックスが、キタキツネ



キタキツネ

に寄生しているだけなら問題はないのですが、キタキツネの糞とともに排泄されたエキノコックス虫の虫卵が、何らかの形で人の口から体内に入ったら、体内で増え、肝臓等にエキノコックス症という病気を起こします。しかし、エキノコックス虫の虫卵は熱には弱いので、なま水をのまないようにすれば予防できます。また、虫卵を手につけないようにするために、キタキツネに触れないように注意しなければなりません。

ヒグマのときにも触れましたが、ゴミやお菓子など、人間が直接、間接的に与えた餌が原因で、キタキツネの一部は、野生の動物ではなくなっています。キタキツネのためにも、エキノコックス症予防のためにも、野生の動物は野生のまま、そっとしておいてやりたいものですね。

北海道で見ることができるときの他の哺乳類としては、エゾリス、ナキウサギ等があります。

また、クジラ、ゼニガタアザラシ、ゴマフアザラシ、トド等も見ることができます。

室蘭市ではクジラウォッチングが催されていますし、襟裳町ではアザラシウォッチングにたくさん的一般観光客も詰めかけているようです。

(2) 鳥類について

①シマフクロウ

シマフクロウは皆さんもテレビ等で御覧になった事があると思いますが、翼を広げると1.5mにもなる大型のフクロウで、天然記念物及び「レッドデータブック」の絶滅危惧種に指定されており、生息数は約100羽といわれています。

北海道中央部・東部に分布し、河川や湖沼周辺の森林に生息し、主にサケ・マス、時には、ネズミ・ウサギ等も補食しています。

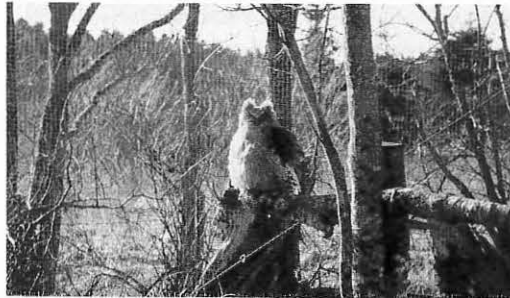
1983年以来環境庁による給餌・巣箱架設事業がおこなわれています。北海道庁は、釧路動物園・地元の研究者等と協力し、電波発信機を装着するなどして、生息調査を実施しています。

しかし、このような保護対策を実施しているにもかかわらず、シマフクロウの幼鳥が交通事故で死亡したり、他の野生動物に狙われることがありました。その後、交通事故の現場には、写真のような標識が取り付けられました。



また、生息域を広げ、遺伝子の多様性を確保する為（近親交配をさける為）北海道大学苫小牧演習林に、放鳥しました。

このように、地道な保護活動が実施されています。



シマフクロウ(苫小牧、北大演習林にて)

②タンチョウ

タンチョウは首の上部と翼の先端が黒で、頭の上が赤いほかは全身白色の大型鳥類であり、北海道東部の十勝から根室の主に湿原地帯に分散営巣しており、天然記念物及び「レッドデータブック」の絶滅危惧に指定されています。

1925年頃は約20羽がかるうじて越冬するというような状況で、絶滅の危機にありましたが、地元関係者をはじめ、関係各方面の協力が実り、1991年度には550羽以上を確認しました。

毎年、12月には地元の小学生の協力により、



タンチョウ(風蓮湖にて)

タンチョウの一斉生息数調査が実施されており、成果を上げています。また地域の人々の給餌活動によって、手厚い保護を受けています。

タンチョウの主な生息地であります釧路湿原はラムサール条約の登録湿地に指定されており、湿



タンチョウ(釧路にて)

原を保全するため、種々の提案がなされています

その釧路で、1993年6月9日から8日間にわたり、ラムサール条約締約国会議が開催され、世界の条約加盟国の代表や、専門家が集い、湿原の保全と賢明な利用法について討議されることと思います。

③ウミガラス

体色が白と黒の海鳥で、首から上及び上面は黒色、下面はまっ白な中型鳥類で、大きな声で、オロロンまたはウルルンと鳴くことから、一般的には、オロロン鳥と呼ばれています。



ウミガラス(天売島にて)

主に、北海道の島で繁殖し、付近の海上で生活しています。

近年個体が激減し、「レッドデータブック」の絶滅危惧種に指定されています。

現在繁殖が確認されているのは、羽幌町の天売

島だけです。天売島では、1963年約6,000羽確認されていたものが、1991年には44羽に減少しました。

そこで、環境庁、北海道、羽幌町は、オロロン鳥を増殖するため、数年前からデコイ（オロロン鳥の模型）やオートサウンド（オロロン鳥の鳴き声を出す装置）を、天売島の営巣地に設置しています。

本年度の確認数は77羽で、生息数の減少に歯止めがかかり、若干の生息数の増加を確認できました。

このように、絶滅の可能性のあるものや、増加傾向にあり社会的に問題があるもの等について、生息環境や分布、生態、個体数等に関する各種の調査研究を組織的、継続的に進めるとともに、生息環境とバランスのとれた形で適正に保護管理されるよう、「野生動物保護管理（ワイルドライフマネジメント）システム」を策定し、人と野生動物の共存が図られるような体制を確立する必要があります。北海道庁では、このワイルドライフマネジメントシステムを策定するための検討を開始しています。

このほか、自然保護、動物愛護思想の高揚に伴い、傷病野生動物の届出件数が最近増加の一途をたどっており、北海道においては、北海道獣医師会及び会員の方々や、各動物園、水族館等に御協力いただき、治療、リハビリ等を実施しています。

1992年の2月に天王寺動物園の施設を見学させていただいたときも、たくさんの傷病鳥獣が収容されており、傷病野生動物の問題に関して、動物園の担っていた役割の大きさを再確認するとともに、改めてお礼申し上げるところです。

さらに現在、動物園について注目していることは、「種の保存」の問題です。シマフクロウの項で書きましたように、絶滅が危惧されるような種になりますと、全国的な種の保存が必要となります。

日本動物園水族館協会では、「種の保存委員会」を発足させ、種の保存に取り組んでおられると聞いております。そこで、動物園が日頃培ってこられた高度な繁殖・飼育技術を最大限に駆使され、目的が達成されるよう、期待しております。

一般の方々にも、展示施設としての動物園の役割だけでなく、傷病野生動物の問題、種の保存の問題等、治療・研究分野においても貢献していることをP.R.しておきたいと思っております。

最後になりますが、自然を保護するということは、樹木・草花・昆虫・鳥・獣等地球上の総ての豊かな自然を、バランスよく総合的に守り育ていくことです。

一人一人が自然を地球を保護しましょう。

(もりた けんいち)

中国の動物園を訪問して

昨年11月25日から12月3日までの9日間にわたり、大阪市・上海市友好交流事業の一環として第9次動物交換・動物園視察団の一員として、中国の上海市に出張し、上海市、成都市、杭州市の動物園を見学することができました。そこでその訪問先で、特に印象に残ったものを簡単にお話しします。

なお、我々が今回、上海市へ贈呈したのは、カリフォルニアアシカ雌1頭とマンドリル雄2頭でした。その交換動物として上海市からウンピョウ1つがい今年贈られることになっています。

§ 上海動物園繁殖センター

訪中2日目の朝に、交換動物贈呈式が、上海動物園内で開催されたあと、動物園から少し離れた繁殖センターを見学しました。1983年に開設されたこのセンターは、中国の第一級の稀少動物を中心に飼育している非公開施設です。広さは4haで、約30種を飼育していました。

トラは、シベリアトラ（東北虎）とアモイトラ（華南虎）の2亜種を飼育しており、毎年繁殖しているとのことでした。特に、アモイトラは絶滅が心配されている種で、中国のみに生息しており、野生ではわずか数十頭という状況ですが、現在中国では飼育下で約200頭まで増え、飼育下の繁殖では上海がトップだと聞きました。

ターキンは、約10頭を飼育し、なかでもゴールドターキンは、全身が黄金色を呈し大変きれいでした。繁殖は毎年しており、1、2歳の若い個体も数頭見ました。3年前に岡山県の池田動物園に贈られた個体もこのセンターで繁殖したものと聞きました。

イボハナザル（金絲猴）は4頭見かけました。子供もおり繁殖も順調そうでした。コウノトリは、今年は3クラッチの産卵があり、人工育雛で10羽の雛が育っていました。これは1年間に繁殖した数では最高記録だそうです。

ヨウスコウワニは全てが冬眠中で見られませんが、マエガミジカ、ユキヒョウなどの稀少動物を見ることができました。

§ 上海動物園

租界時代にゴルフ場であったのを1954年に上海市西郊公園として一般市民に開放されたのが始まりで、1955年に上海市西郊公園動物園として開園しました。1981年には上海動物園と名称を改めています。園内見学でまず目についたのが、工事中の両生爬虫類館です。まだほんの基礎工事に入ったばかりでしたが、今年6月完成とか。一方、新霊長類舎も建設中で、完成間近でした。ほかに熱帯鳥類館、動物科学館が計画中で、上海動物園

では現在、基本改革計画を立案しており、系統分類学的な展示を確立しようとしていますので、数年後の上海動物園はかなりの変貌がみられそうです。

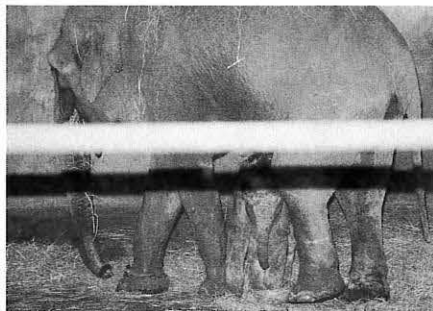
金魚館は、日本の動物園ではまずありませんが、中国の伝統あるめずらしい金魚が数多く水槽展示されているのには驚きました。

また、上海動物園には、なんと2.5haもある水禽池があり、そこにはハイイロペリカンやガンカモの仲間が多数放たれ、鳥たちが悠々と泳ぎまわっていました。ハイイロペリカンは自然繁殖をしており、翼を切っていないので、毎朝9時から11時の間に、上空を自由に飛び回るのだそうです。またこの池には数ヶ所の島があり、その中の樹木には野生のゴイサギとコサギのコロニーがあり壮観でした。

海獣舎は完成したばかりで、ショウができるように観覧席が多数設けられていました。プールで泳ぐアザラシとアシカを見ました。

キリン舎では、生後2か月の赤ちゃんがいました。生後35日目に母親が死亡したため人工哺育中でした。

巨大なアジアゾウ舎では、わずか生後4か月のかわいいオスの子象が母親にぴったり寄り添って



アジアゾウの赤ちゃん

いました。上海動物園で生まれたこの子の名前は「美納」で、性別は雄でした。母親は20歳で中国南部の雲南省、西双版纳（シーサンパンナ）で保護された野生個体だということでした。

§ ジャイアントパンダ繁殖センター

11月28日朝、濃霧の中の渋滞をかいくぐり、成都市内から車で1時間の郊外にある繁殖センターに到着しました。

ガラス張りの各獣舎の寝室は、1988年に植栽したという観音竹や金糸竹等の竹類によって周囲をおおわれており、これらの竹により外部から完全に遮断されているので、パンダにとって生息地にいるような環境が提供されていました。また、屋外放飼場は十分な広さでした。



パンダ繁殖センター屋外放飼場

センターでは合計9頭のジャイアントパンダが飼育されていました。仰向けに寝ながら、生まれて2か月ばかりの赤ちゃんを胸に大事そうに抱いて哺乳させている、母パンダの姿はたいへん印象に残りました。



哺乳中のジャイアントパンダ

パンダの餌は、モウソウ竹以外にマントウ（とうもろこしの粉、牛乳、生タマゴを混ぜて蒸したもの）とリンゴを与えていました。

繁殖センターは組織上は成都動物園の1つの科（課）ですが、財政面では動物園とは独立しており、募金、動物園の入場料、政府からの資金、パンダの他政府への貸し出しにより得た資金により運営されていました。

1975年は冬季の寒波、竹の開花、さらには地震で、野生のジャイアントパンダが多数病気になる死にましたが、そのときから、成都動物園では積極的に救急活動を行ってきており、既に88頭のパンダが救助されたそうです。その後の調査で、パンダの生息数が急速に減少していることがわかり、1978年からは繁殖等の野外調査を成都動物園で始め、四川、陝西、甘肅の3省にわたるパンダの生息地に約1,000頭、四川省だけでその半分が生息することが分かってきました。

1978年、北京動物園では新鮮精液を用い、人工授精に成功していますが、成都動物園でも同年からオスがいないので冷凍精液で実施し、1980年にやっと成功したそうです。パンダが増えだすと今度は交配する場所がなくなってきたので、政府に要望していたところ、もともと苗圃であったこの場所(4.5ha)に竹の繁殖場とパンダの飼育場を建設することが決定し、1987年3月から1年半かけて建設することができたそうです。この環境に順応した1991年から自然繁殖するようになったとのことでした。

現在のセンターの面積は37haで、将来は200haを目ざし、四川省特産の稀少動物（レッサーパンダ、イボハナザル、ジュケイ、オグロゾル等）を飼育する予定と聞きました。

§ 成都動物園

成都動物園は1953年にでき、その後起こった文化大革命は動物にとっては大変な受難の時代だったようです。

成都のジャイアントパンダ舎は大変大きく立派で、屋外運動場も広く、十分、運動ができそうです。今、11頭のパンダがいるそうですが見学に訪れたときには、4頭の赤ちゃんパンダを母親から離して動物舎横で日光浴させていました。人工哺育ではないので当然のことなのですが、小さいながらも我々に対し威嚇してくるのには驚きました。パンダの子供は1歳半で歯が生え換わり、2歳におとなの毛に生え換わるということでした。性別鑑定は難しく、性別を間違ったこともあるそうです。

中国から日本に贈られたレッサーパンダの9割が成都動物園産ということで、ゆったりした動物舎の中で10頭ものレッサーパンダが戯れていました。

成都では、以上の2種のパンダほか、アジアノロバ、キャン、ターキン、クチジロジカ、オグロゾル、ジュケイなどの多数の稀少種が飼育されていました。

§ 杭州動物園

杭州動物園は山の中腹にあり、西湖等の周囲に風光明媚な名所を多くかかえる自然の地形、植物をとり入れた落ち着いた動物園でした。中国の金魚の原産地はこの杭州で、金魚の系統図を掲げた金魚館がありました。

大型の稀少動物は少く、あまり飼育していませんでしたが、小型の動物ではこの特産動物のマエガミホエジカを飼育しており、またキジの仲間のジュケイも展示されていました。

トラ舎は植物がうっそうと茂り、まさにトラが出てきそうな雰囲気をかもし出していました。

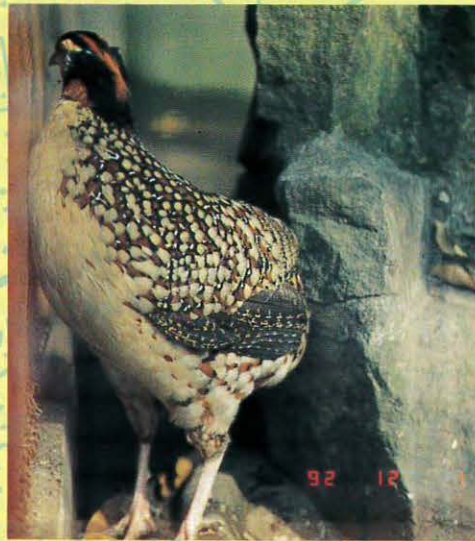


生息地を再現したヘビの展示

爬虫類舎ではハブなどの毒ヘビも一部展示され、約30種が飼育されており、ほとんどがこの地方特産の爬虫類でした。展示箱の中は、土をよく使用しており、生息地に似せた展示がされているのに感心しました。餌は魚釣り用に養殖がされているミミズが主体だということでした。

中国訪問は、以前に私的なものが2回あり、今回が3回目、訪ねた動物園も6園となりました。今回は公式な訪問で見学することができない上海動物園の繁殖センターや、成都動物園のジャイアントパンダの繁殖センターを見学でき幸運でした。今後も機会あるごとに中国の動物園を訪問すると同時に、動物を通しての日中友好親善につくしていきたいと思っています。

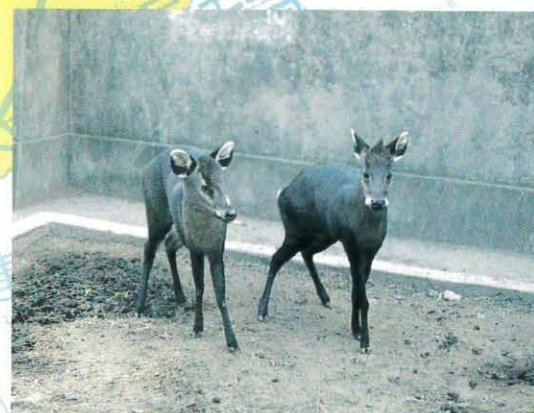
(飼育課：森本委利)



ジュケイのオス(杭州動物園)
 上海成都の動物園でも見かけましたが、たいへんおびょうな鳥なので運良く写真が撮れたのがこの杭州だけでした。5種いるジュケイ類のうち最も東に分布し、中国南東部の森林に生息します。



アムールトラとその動物舎(杭州動物園)
 まさに自然と一体になった動物舎といえます。中央部にゆったりとたたずむトラをみたとき、野生の姿をかいま見た気がしました。



エガミシカ(上海動物園繁殖センター)
 中国南部・東南部・中央部、ミャンマー北東部の森林に生息する肩高63cmほどのシカです。角は前頭部にある毛冠で見えませんが、



ジャイアントパンダの子供(成都動物園)
 母親から離れて日光浴しているところです。3頭(生後3か月)のうち2頭は双子です。

グラフZOO

中国の動物園

中国出張のおり(昨年11月25日～12月3日)に撮影した、上海、成都、杭州の各動物園の珍しい動物たちや動物舎を紹介しましょう。(撮影：森本委利)



インドジャコウネコ(杭州動物園)
 インド北部から中国南部と広い地域に分布し、体重も10kg程の大型のジャコウネコで、実物を見たときはたいへんな迫力を感じました。



クチジロジカ(成都動物園)
 口先と下あごが白色で、おとなのオスには普通5本の枝角があります。チベットと中国西部の高原(標高3500～5000m)に住んでいます。



キバノ(成都動物園)
 角がなく、オスの牙が長く伸びる小型のシカで、中国揚子江沿岸と朝鮮のアシ等が高く茂ったところや山腹の草やぶに普通1頭で住んでいます。



オグロツル(成都動物園)
 チベットや青海省などの標高3800～4700mの湿地や湖沼で5～6月に繁殖しますが、標高が高いので大変寒く、夜は氷点下になることもあるそう。タンチョウに似ていますがクロツルに近縁です。

7

20°

9

8

コアラの健康管理

平成元年6月1日は私にとって忘れられない日です。それはコアラが入園した日だったからです。永い準備期間を経て、ようやくこの日を迎えたのです。

コアラ導入の歴史は入園に先立つこと7年前の昭和57年に始まります。この年に導入を正式に決定し、準備を始めました。昭和58年にはオーストラリアの何処からコアラを導入すべきかを決定するため職員がオーストラリアに出張しました。この結果、大阪市と姉妹都市であり、気候も似たメルボルン市の動物園から導入することが決定しました。そして昭和59年には私自身もオーストラリアに出張し、1か月滞在して各地のコアラ飼育園を見学しました。この間、コアラ飼育のノウハウ、ユーカリ管理のノウハウ、コアラ館建設のポイントについて研修しました。そして、同年、本格的にユーカリ栽培を開始しました。導入予定のヴィクトリアコアラが好むユーカリの樹種を慎重に選定したことは言うまでもありません。ほぼ準備が完了し、平成元年にメルボルン動物園の方をお招きし、準備状況を視察していただきました。そして、これなら大丈夫というお墨付きをいただきオーストラリア連邦政府の輸入許可もいただきました。

そして、私は3名の飼育担当者と共に再度訪豪しました。今度はメルボルン動物園のみに滞在し入園予定の3頭のコアラとのスキンシップを高めました。コアラは大変ストレスに弱い動物です。このスキンシップがうまく行かないと、飼われること自身がストレスになりかねません。幸い、3頭のコアラはうまく私達になじんでくれました。そして平成元年6月1日を迎えたのです。

入園当初は24時間体制で行動観察を行いました。3頭はうまく新しい環境になじんでくれました。24時間の行動観察はタイムラプスビデオを用い、現在も続けています。

コアラがストレスに弱い動物であることはお話ししましたが、同時に抗生物質を使えない動物としても有名です。抗生物質は細菌感染を防ぐ薬としてよく使われます。しかし、コアラでは体の中の役に立つ細菌も殺してしまうのです。コアラの主食はユーカリですが、このユーカリはとても消化しにくいものらしく、ユーカリを主食とする動物はコアラとフクロムササビだけです。コアラはこの消化しにくいユーカリを細菌の力で分解し、栄養としています。しかし、抗生物質はこれらの有用な細菌まで殺してしまうので、コアラはユーカリを消化出来なくなって衰弱し、死んでしまうのです。ですからコアラの飼育ではこの抗生物質を使わなければならない状態にしないことが大切なのです。

毎日、獣医師と飼育担当者が細かにコアラを観察し、健康チェックをしています。1日の採食時間や行動はビデオで観察し、人に対する反応、便の状態、尿の状態、目の輝き、毛のツヤ、その他

獣医室から

59



様々なことは直接コアラを触りながら厳しくチェックしています。また、必ず2か月に一度は血液を採取し、様々な項目にわたって異常がないか調べています。新鮮な便や尿も手に入るたびに検査しています。

体重も大事な健康のバロメーターです。毎週月曜日には全頭の体重測定を行っています。この時、無理やり抱っこしたりするとストレスになりかねません。そこで止まり木を用いる方法を考案しました。それぞれのコアラ専用の止まり木を縦にしてコアラに近づけます。するとコアラは自分からこの止まり木に登って来ます。そして止まり木ごと重さを測り、コアラを戻した後、もう一度測ってコアラの体重を割り出します。こうすればコアラに全くストレスを与えません。また、1日に20本位のユーカリを1頭のコアラに与えています。これも1本ごとに採食状況を調べ、各コアラごとの好みを調べています。もし、食欲が落ちた時、食欲を回復させるための有効なデータになります。

平成2年4月には更に3頭のコアラが入園し、平成3年7月26日には初めての赤ちゃんも誕生しました。近い将来にはもう1頭赤ちゃんが生まれることが期待出来ます。このように、現在まで天王寺動物園のコアラ飼育は極めて順調ですが、その裏には飼育担当者や獣医師の日々の細かな観察が隠されているのです。

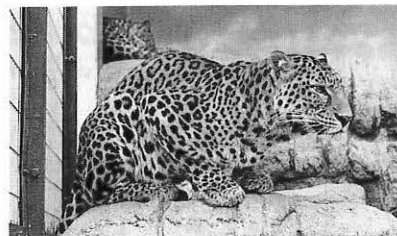
(飼育課：長瀬 健二郎)

1/1. アオサギを1羽保護しました。

1月2日 新年の初開園日なので、レクチャールームで中山所長が、鳥の話を中心にした年頭のあいさつをしました。展示館では、「トリにちなむ郷土玩具展」(2月11日まで)が始まりました。エトにちなんだ郷土玩具(青森県はじめ国内35都府県とアジア各国からのものも含め268点)を展示しました。



1月4日 ヒョウのオスとメスを8か月ぶりに同居させました。これは、昨年5月9日に逆子のために難産となったメスを手術したためで、手術後早々に妊娠しないように一定期間オスとメスを分離していたものです。近日中には交尾することが予想されますので、4月ごろにはまたかわいい子供が生まれるかもしれません。



西尾市長の新年あいさつで開園80周年にあたる平成7年に完成予定で新爬虫類館を建設することが発表されました。

- 1/8. エミューが今年最初の卵を生みました。
- 1/9. 出産が予想されるため、ツキノワグマのメスを産室に隔離することにしました。
- 1/10. マンドリルが交尾しました。
- 1/11. フクロウを1羽保護しました。
- 1/13. コサンケイの昨年生まれのヒナ2羽を繁殖期が近づいてきたため、両親から離し別室に移しました。
- 1/15. ここ5日間、ヒョウの交尾が続いています。

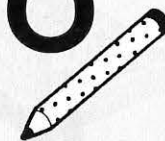
1月17日 第92回動物のお話しとスライドの会



で「鳥とは何だ」を行いました。講師は吉本飼育係長で、鳥が空を飛べる体のしくみや特徴を鳥の剥製やスライドを用い

今月もおもしろ情報満載

ZOO DIARY



てわかりやすく説明するとともに、当園で飼育している鳥たちも紹介しました。

1月18日 新しい血統

を導入するため昨年12月20日来園したカリフォルニアアシカのメス「イネ」(2歳)の検疫が無事終わりアシカ舎で群れと同居させました。これで群れは計10頭(オス1、メス9)となりました。

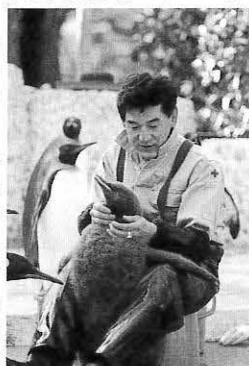


1/20. 発情のため、バーバリシープのおとなのオス同士の間角突き合いがこのところ続いています。

1/21. キーウイ4羽の体重測定を行いました。

1月28日 昨年10月6

日にふ化したオウサマペンギンのヒナ「モモコ」は順調に育ち、親の大きさとほとんどかわらなくなりになりました。親からもらうエサ(アジ)が少なくなったため、飼育担当者が補助的にエサを与え始めました。



1/29. フラミンゴが動物舎から飛び出さないよう、羽を切りました。トカラヤギが2頭生まれました。

☆テレホンサービス：771-9999

☆お知らせ

- ビンゴゲーム(定員40名)
日時：3月21日(日)午後1時～
場所：レクチャールーム
- 桜まつり
期間：3月20日(土)～4月4日(日)
- 動物園ボランティア募集
期間：3月1日(月)～3月31日(水)

[訂正] 2月号ZOO DIARY 小鳥時計の改修工事に記事において天王寺動物園から寄贈とありますが、天王寺動物園協会からの寄贈のまちがいで、たのでおわびして訂正します。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑 一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価600円

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？動物園での世話の仕方は？仲間とは？など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

オートフォーカスカメラに



フジカラー SUPER HG 400

ピントが合いやすいフィルムです

かろうの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031
OHVAC店
（ギャレ大阪） ☎346-7606

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

歌集 犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入
B6判・270頁
3000円・〒不要

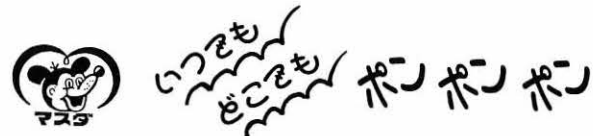
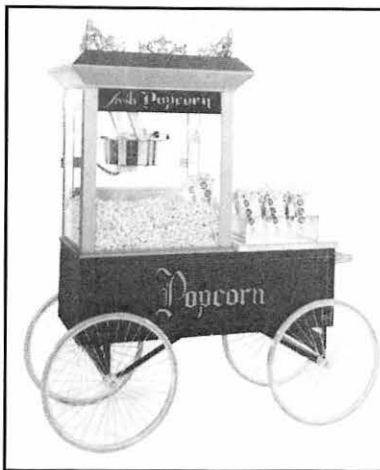
《感動の言葉》

- ☆ この歌は愛犬と異体同心の境地である。（英文学者）
- ☆ 人として注ぎ得る愛情の極致を示している。（動物研究家）
- ☆ 一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。（動物愛護家）

●本書は、書店ではお買い求めになれません。直接当会へお申し込みください。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

マスターのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06) 865-0165

新作
貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

天王寺動物園の本 入園の記念・手引に……

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

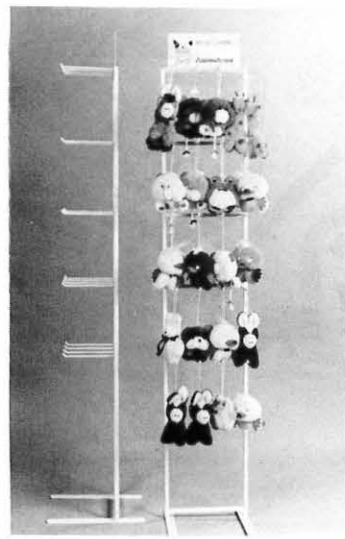


コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

オールカラー
500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

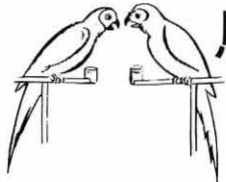


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

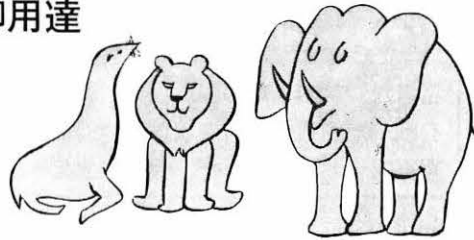
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06)704-8580
FAX: (06)704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

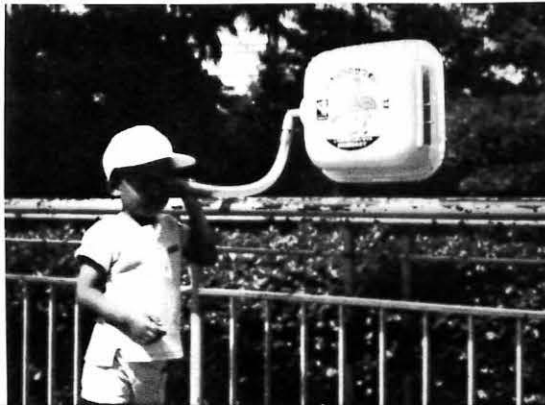


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヶ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、 ご休憩は



動物園内.....

中央売店

TEL 06-771-0973

お食事・飲もの・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL 06-771-7110



園内での写真は... 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしく願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



Our Yogurt has fruity
and rich texture!!



「ほりたてミルクのおいしさが、生きている。」

雪印
オガール

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



“生イキヨーグル”と
覚えてね。

HIJIRI-KOJIMA

一日
愉快に
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1993年3月10日発行(毎月10日発行)第29巻 第3号 (通巻331号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06)771-0201

振替口座 大阪3-37823

編集委員

(中山良三郎/村上昭/中尾啓一/榎本勲/中川哲男/吉本昌俊/山根和弘/大谷直樹/宮下実/長瀬健二郎/榎原安昭)
(森本委利/竹田正人/永田健一/前田茂/大野尊信/野口秀高/早川篤/堀内智生/大川光雄/土谷正道/山元良幸)